

訪問看護や介護 端末で情報確認

CEKがシステム販売

事業所への移動など 負担を軽減

ソフトウェア販売のCEK(香川県坂出市)は看護師や介護士の訪問サービスを管理するシステムの販売を本格化する。看護師らのスケジュールや利用者の情報を共有し、移動や書類作成の負担を減らす。効率よくサービスを提供できるようにした。県の遠隔医療システム(K-MIX)との連携を目指す。医療機関との情報共有にも取り組む。

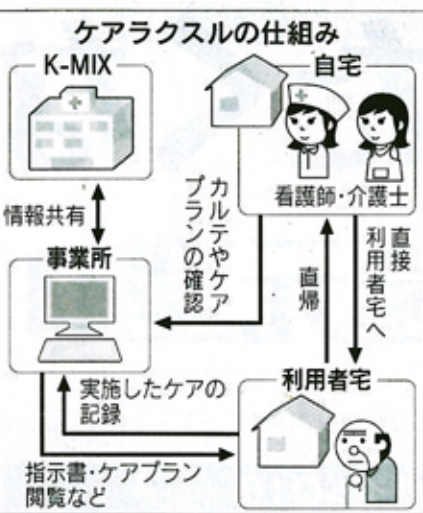
管理システム「Careluxi(ケアラクス)」は新日鉄住金ソリューションズと共同開発した。看護師や介護士に多機能携帯端末(タブレット)を持たせ、専用のUSBキーと個別のIDでのみログインできるようにした。看護師らは、事業所に効率よくケアできる。ケア

管理する看護・介護計画や訪問スケジュールのほか、利用者の情報を自宅などで確認できる。提供したサービスをタブレットに入力すると、事業所に設けた専用のパソコンと共有できる。事業所への移動がなくなり、スタッフの負担が減るほか、ケア

看護師らは、事業所に効率よくケアできる。ケア



事業所で現場の看護師らのスケジュールやケア記録が確認できる



利用者のデータはタブレット内には残さず、サーバーのみに保存するため、セキュリティは高いという。個人情報の管理が厳しい診療記録などは事業所から持ち出せないため、直接確認してから利用者宅に向かう必要があった。

医療分野との連携にも乗り出す。K-MIXに参加する医療機関の医師がケアラクスルのデータを閲覧できるようにする。

機関の医師にデータを公開治療やケアプランに反映できるという。2年間ジャーが看護師の訪問記録を見て、指示書を送れるようにする。

リアルタイムで情報共有するため、通常より早くケアラクスルの導入は看護師1人に付与する。D料金の月6千円のほか、タブレットやパソコンの設備費用が必要。現在は若手、広島のみで販売にとどまるが、早期に販路を拡大する。

来年4月から一部医療